

C ' S M A I L

VOL. 73

 **コスモ石油株式会社**

株主通信《シーズ・メール》WINTER 2012

第107期 第2四半期 事業のご報告

平成24年4月1日～平成24年9月30日



決算ハイライト

※億円未満四捨五入

Cover Story

カバーストーリー

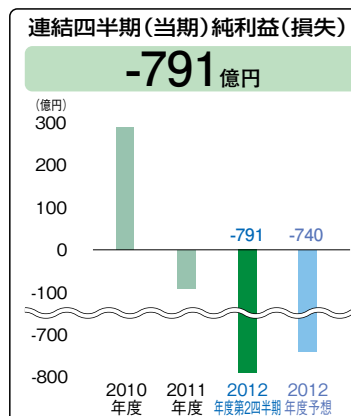
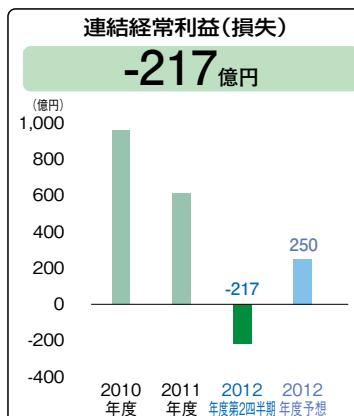
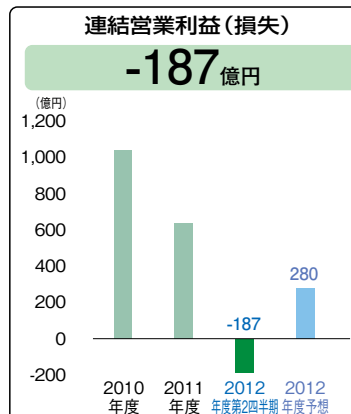
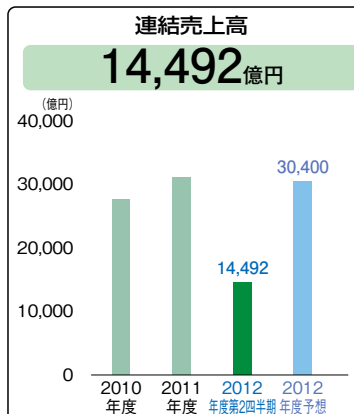
●青森県

表紙のイラストは、当社のグループ会社が運営する風力発電の風車が設置されている青森県をモチーフにしました。名城として人気が高い弘前城、十和田湖、そして八戸の郷土玩具である八幡馬、えんぶりの烏帽子などで構成しました。

表紙イラスト 古田 忠男



※世界を旅するALAちゃんは、日本でも美しい植物を育てています。



(単位:億円)

	2010年度	2011年度	2012年度第2四半期	2012年度予想
連結売上高	27,715	31,097	14,492	30,400
連結営業利益(損失)	1,041	636	-187	280
連結経常利益(損失)	961	614	-217	250
連結四半期(当期)純利益(損失)	289	-91	-791	-740

第107期(2013年3月期) 第2四半期連結累計期間 財務・業績のご報告と 通期の見通しについて



代表取締役会長(左)
木村 彌一

代表取締役社長(右)
森川 桂造

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の第107期第2四半期連結累計期間(2012年4月1日～2012年9月30日)(以下:当第2四半期)の財務・業績の概要について、ご報告いたします。

●2012年度第2四半期における 国内経済環境について

当第2四半期における国内経済は、欧州や米国等先進国における景気の低迷、円高の影響による輸出の不振に加え、民間の消費活動の伸び悩みや震災復興需要の広がり遅れ等から国内需要の回復力も弱く、足踏み状態が続きました。

当社の事業環境については、原油価格につきましては、中東情勢の緊迫化による供給懸念はあるものの、欧州地域や新興諸国の景気の低迷等、世界経済の停滞が長期化することを懸念した需要減退等により、当社の受入原油コストは、1バレル109.40ドルと前年同期比0.98ドル下落しました。為替相場については、欧州の債務

トップ・メッセージ

問題や新興諸国の景気低迷により円高傾向が継続した結果、1ドル80.38円と前年同期比0.22円の円高となりました。国内の石油製品需要は、震災復興需要の遅れ等から伸び悩み、原発の稼働停止による火力発電所の稼働率上昇により大幅に増加した電力用C重油を除き、全ての油種で低調に推移しました。

●コスモ石油グループの営業概況

営業概況を事業セグメント別に解説しますと、石油事業は、年度当初は個人消費の緩やかな回復が見られましたが、需要は減退傾向にあり、また製品市況も低調となりました。油種別では、電力用C重油は原発の稼働停止による火力発電所の稼働率上昇により大幅に増加しましたが、その他の油種は自動車の燃費向上、省エネによる燃料転換等で総じて減少しました。コスモ石油個別の国内

燃料油の総販売数量は前年同期比99.8%となり、中間留分の輸出数量は、前年同期比27.8%と大幅に減少しました。

上記に加え、原油価格の期初在庫が当第2四半期の受入コストよりも高かったため、在庫評価損が発生した結果、石油事業の経常利益は、前年同期比438億円減益の377億円の損失となりました。石油化学事業は、販売数量の減少と市況悪化により前年同期比38億円減益の22億円の損失、石油開発事業は、原油価格は前年同期に比べ上昇しましたが、販売の期ずれによる販売数量の減少により前年同期比10億円減益の242億円の利益となりました。

当第2四半期の連結経営成績については、売上高は1兆4,492億円（前年同期比43億円減収）、営業損失は187億円（同462億円減益）、経常損失は217億円（同493億円減益）、四半期純損失は、千葉製油所のアスファルト漏洩事故に係る損失や坂出製油所閉鎖に伴う事業構造改善費用等の特別損失を計上、また足元の状況を鑑み繰延税金資産の取崩しを行ったこと等により791億円（同819億円減益）となりました。

当第2四半期末における連結の財政状態につきましては、総資産は1兆5,510億円となり、前期末比1,241億円減少しております。これは主に原油価格が下落したことで、たな卸資産が減少した

■連結業績サマリー

(単位:億円)

	当第2四半期	前年同期比
連結売上高	14,492	-43
連結営業利益(損失)	-187	-462
連結経常利益(損失)	-217	-493
在庫評価の影響	-172	-303
ネット連結経常利益(損失)	-45	-190
連結四半期純利益(損失)	-791	-819

ほか、売掛金等の流動資産が減少したことによるものです。純資産は繰延税金資産の回収可能性の見直しに伴い、利益剰余金が減少したこと等から2,509億円となり、前期末比865億円減少し、自己資本比率は14.7%となりました。

● 2013年3月期、通期の見通し

当社グループは、「第4次連結中期経営計画」の最終年度となる2012年度下半期についても石油精製販売事業の合理化及び変革、石油開発及び石油化学分野での中長期的な成長戦略を着実に実行してまいります。

千葉製油所につきましては、2013年1月から常圧蒸留装置等の主要装置を再稼働していく計画で、4月中には常圧蒸留装置2系統での生産体制が整う計画です。また、震災で焼失したLPGタンクの再建も完了し、使用が開始される計画です。今後とも安全の確保を最優先としながら製油所運営に取り組んでまいります。

■ 2013年3月期 通期連結業績予想

(2012年11月1日公表)

● 通期 (2012年4月1日～2013年3月31日) (単位:億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益(損失)
連結	30,400	280	250	-740

● 受入原油価格、為替の前提

原油価格(ドバイ)=108.20ドル/バレル 為替=78.70円/ドル

2013年3月期、通期の予想につきましては、原油価格を1バレル108.20ドル、為替は1ドル78.70円を前提としまして、売上高3兆400億円(前年同期比697億円減収)、営業利益280億円(同356億円減益)、経常利益250億円(同364億円減益)、当期純損失740億円(同649億円減益)となる見通しです。

● 配当予想の修正について

配当の見通しにつきましては、当社は配当政策を最重要課題のひとつと位置づけ、安定的な配当を継続してまいりました。しかしながら、通期業績予想の修正等を総合的に勘案し、誠に遺憾ながら2013年3月期の年間配当につきましては、無配(中間:0円、期末:0円)とさせていただきます。当社は、千葉製油所の確実な再稼働に取り組むことにより、来期の業績回復ならびに復配に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

業績予想の適切な利用に関する説明

業績予想につきましては、2012年11月1日の発表日において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。

要約四半期連結財務諸表

要約四半期連結損益計算書

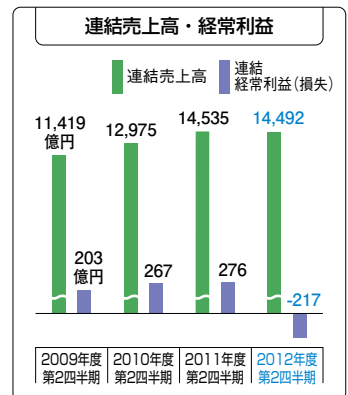
(単位:億円)

科目	当第2四半期 (2012.4.1 ~ 2012.9.30)	前第2四半期 (2011.4.1 ~ 2011.9.30)
売上高	14,492	14,535
売上原価	14,089	13,636
販売費及び一般管理費	590	625
営業利益(損失)	-187	275
営業外収益	57	81
営業外費用	87	80
経常利益(損失)	-217	276
特別利益	12	5
特別損失	137	125
税金等調整前四半期純利益(損失)	-342	157
法人税等	425	110
少数株主損益調整前四半期純利益(損失)	-767	47
少数株主利益	24	19
四半期純利益(損失)	-791	28

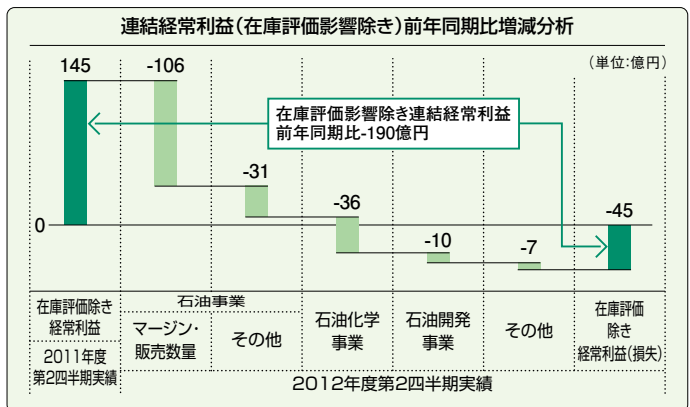
※億円未満を四捨五入しています。

販売価格の下落等により減収 マージンの悪化等により減益

当第2四半期の連結売上高は、1兆4,492億円となり前年同期比43億円の減収、連結経常損失は217億円で前年同期比493億円の減益となりました。四半期純損失は、足元の状況を鑑み保守的に繰延税金資産の取崩しを行ったこと等により前年同期比819億円減益の791億円となりました。



当第2四半期における在庫評価の影響-172億円を除いた連結経常損失は45億円となり、前年同期比190億円の減益となりました。その主な内訳は、マージンの悪化等で-106億円、千葉製油所の稼働停止に伴う固定費の振替等で-31億円となる等、石油事業合計では-137億円。石油化学事業は販売数量の減少と市況の悪化等で-36億円、石油開発事業は期ずれによる販売数量の減少等で-10億円、その他で-7億円となりました。



要約四半期連結貸借対照表

(単位:億円)

科目	当第2四半期末 (2012.9.30)	前期末 (2012.3.31)
資産の部		
流動資産	8,358	9,204
固定資産	7,146	7,544
有形固定資産	5,727	5,802
無形固定資産	91	95
投資その他の資産	1,327	1,646
繰延資産	6	3
資産合計	15,510	16,751
負債の部		
流動負債	6,868	7,443
固定負債	6,133	5,934
負債合計	13,001	13,376
純資産の部		
株主資本	2,142	3,000
その他の包括利益累計額	138	169
少数株主持分	228	205
純資産合計	2,509	3,374
負債純資産合計	15,510	16,751

※億円未満を四捨五入しています。

要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当第2四半期 (2012.4.1～2012.9.30)	前第2四半期 (2011.4.1～2011.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	-283	201
投資活動によるキャッシュ・フロー	-347	-147
財務活動によるキャッシュ・フロー	631	118
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	-7
現金及び現金同等物の増減額	14	166
現金及び現金同等物の期首残高	1,224	943
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,239	1,109

※億円未満を四捨五入しています。

●資産の部

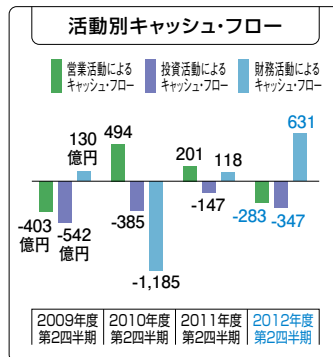
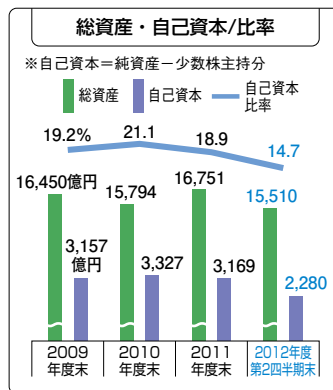
総資産は、原油価格が下落したことでたな卸資産が減少したほか、売掛金等の流動資産が減少したこと等で前期末比1,241億円減少しました。

●負債の部

負債は、支払手形、買掛金等の減少により前期末比375億円減少しました。

●純資産の部

純資産は、前期末比865億円の減少となり、自己資本比率は14.7%となりました。



コスモ石油は、グループ社員やお客様とともに 社会貢献活動に取り組んでいます

「わたしたちは、地球と人間と社会の調和と共生を図り、
無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざします。」

この経営理念の実現に向けて、コスモ石油は、経営・財務状況に左右されず、
長期継続を基本方針として、国内外の社会貢献活動に取り組んでいます。

企業は、社会の一員です。そのため、企業が
発展していくためには、社会から存在を認めら
れることはもちろん、社会が平和で健全である
こと、地球環境が保全されていることが、その
前提条件となります。コスモ石油は、地球と人
間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未
来に向けての持続的発展をめざすことを経営理
念に定め、コスモ石油グループ社員や社外から
も幅広く参加を促し、社会貢献活動に取り組ん
でいます。

コスモ石油の社会貢献活動は、グループ社
員が主体的に参加する社会貢献活動として、
1993年に交通遺児の小学生を対象とした自然
体験プログラム「コスモわくわく探検隊」からス
タートしました。この活動は今年で20周年を迎
え、独立行政法人「自動車事故対策機構」より
感謝状もいただきました。

また環境をテーマにしたイベントを開催し
たり、ラジオ等で情報を発信したりすることで、
環境について考え、行動する機会を広げる活動

「環境メッセージの発信」を1995年から始め、
さらに2002年からは、お客様とともに地球温暖
化の防止や次世代の環境教育支援に取り組む
プロジェクト「コスモ石油エコカード基金」によ
る活動を開始しました。

今後も自ら社会貢献活動を推進できる社員を
増やすことにより、社会貢献マインドにあふれ
た企業風土の醸成を進め、また、お客様やNPO、
支援先とのネットワークを広げることで、活動の
質の向上や活動フィールドの拡大を図っていき
ます。

■社会貢献活動の主なテーマ

子ども・環境・社会をテーマにした活動

環境メッセージの発信

コスモ石油エコカード基金の活動

製油所 グループ会社の活動

子ども・環境・社会をテーマにした活動

社会貢献活動の基本方針

コスモ石油として
オリジナリティのある
活動を行う

社員が参加して
活動する

経営状況に左右されず
長期継続する

社会貢献活動のコンセプト

未来の社会をつくる
子どもたちの啓発

人間社会が存続する
ための基盤である
地球環境の保全

平和で心豊かな
文化的社会の構築

子ども向け環境教育プログラム
第20回 コスモわくわく探検隊

コスモ石油は、車社会と深い繋がりを持っています。そのため交通遺児の小学生を対象とし、環境の大切さを考える機会の一助となることをめざし、社員ボランティアが中心となって運営する、2泊3日の自然体験プログラム「コスモわくわく探検隊」を継続的に実施しています。第20回となる今年は、「自然からもらってつくる、ぼくたちの冒険」



をテーマに、三ツ峠麓の緑豊かな山あいに広がる山梨県都留市の「宝の山ふれあいの里」で開催し、小学生32名と当社グループ社員14名、その他社外サポートスタッフなどが参加しました。



コスモわくわく探検隊 隊長
コーポレートコミュニケーション部
CSR・環境室長 三浦幸雄

コスモわくわく探検隊は今年で20回目を迎えました。今年も天候にも恵まれ、大きなケガもなく無事に全てのプログラムを終えることができました。子どもたちははじけるような笑顔と輝く瞳を見ていると、私たちの体の中にも勇気や元気が湧いてくるような気がしました。子どもたちは、美しい空・山・川と仲間に囲まれて過ごした3日間のたくさんの思い出や経験を胸に、立派に成長してくれるものと信じています。社員ボランティア、社外スタッフのご協力に心から感謝し、これからも本活動を継続してまいります。



参加した社員
ボランティアの声

たった数日間ですが、想像以上の経験とたくさんのことを得た、記憶に残る日々でした。今年初めて参加し、最初は周りのスタッフの意識の高さと熱い気持ちに圧倒されましたが、気づけば自分もその中に引き込まれ、一緒になって夢中で取り組んでいました。予想できない子どもたちの行動にあたふたしながらも、全身で自然を満喫した2泊3日の思い出が、数ヵ月たった今も子どもたちの笑顔や姿とともに鮮明に頭に浮かびます。

特集：社会貢献活動のご紹介

楽器とあそぼう！

コスモ・ファミリーコンサート

東京フィルハーモニー交響楽団のミニオーケストラによる来場者参加型のファミリーコンサートです。地域貢献と健全な次世代育成の一環として、当社製油所周辺にお住まいの方々をご招待しています。2012年6月には香川県坂出市で開催し、子どもたちが歌や楽器で参加しました。



コスモ絵かきっす

～ソーラーライトに灯りをともそう～

児童養護施設で暮らす子どもたちと、アーティストや社員ボランティアが一体となって、アートを楽しむプログラムを実施しています。2011年12月には、ソーラーライトを使った「クリスマスエコライト」を作りました。



コスモ・クリスマスカード・プロジェクト

病気で入院中の子どもたちに、当社関係者と子どもたちから、オリジナルのクリスマスカードにメッセージを添え、贈るプロジェクトです。2011年12月は、全国23カ所の病院に2,300枚のカードをお贈りしました。



チャリティ・ジャズコンサート

Jazz Night @ 魚籃寺 2012

難病を抱える子どもとその家族が滞在する施設「ファミリーハウス」を支援するためのチャリティコンサートを、当施設の内のひとつを敷地内に持つ東京都港区三田の魚籃寺で開催しています。



ハッピーカラー・プロジェクト

アーティストのMAYA MAXX(マヤ・マックス)さんが、全国の病院を訪れ、入院中の子どもたちと一緒に絵を描く活動に協賛しています。無限の色と輝きの時間、MAYA MAXXさんのパワーと温かさを届け、明日への元気に繋げてもらうプロジェクトです。



新国立劇場協賛

「心豊かな文化的社会的構築」への一助として、2007年10月から2010年9月までバレエ公演のシリーズ協賛を行い、2010年10月からは法人賛助会員として協賛をしています。



環境メッセージの発信

コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI

当社は、地球環境の大切さを呼びかけていく活動「コスモ アースコンシャス アクト」をJFN(全国FM放送協議会)加盟局とともに展開しています。活動の一環として、全国の山、川、海、



ボランティアの方々の努力に感謝
野口 健さん

全国からの参加者の皆さん、あっという間の2日間でしたがありがとうございました。富士山清掃を始めて今年で13年目になりますが、未だに不法投棄が後を絶ちません。今回の清掃現場も今年で4年目ですが、まだまだ終わりが見えません。それでも諦めずに、黙々と清掃をされる皆さんの姿に心から感謝します。新幹線や飛行機から見る美しい富士山はA面。一方で、樹海の中の不法投棄の現場はB面。富士山に限らず日本にはまだまだこのB面が沢山あります。B面は社会のテーマ。このB面を意識して今後も活動を続けていきたいと思います。

湖、公園を舞台に、自然と親しみながら清掃活動を行う「クリーン・キャンペーン」を実施しています。

7月21日、22日には、「クリーン・キャンペーン」のシンボリックな活動として、「コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI」を1泊2日で開催しました。当日は、アルピニストの野口健さん、ラジオ番組「コスモ アースコンシャス アクト ずっと地球で暮らそう。」のパーソナリティである中西哲生さん



特集：社会貢献活動のご紹介

をはじめ、10歳～59歳までの幅広いリスナー95名の皆様、各局のパーソナリティ、コスモ石油グループ及びJFN関係者など、合計180名が参加しました。初日は、富士山麓の樹海の清掃活動を通じて、不法投棄など人間の手で汚されてしまった「負」の側面を体験し、2日目には、エコトレッキングを通じて、富士山の「正」の側面である貴重な植生のある原生林を体験しました。

参加者のコメント

- 遠くから見ると美しい富士山が、近くまで行くと予想外に汚されていることを自分の目で確かめることができました。野口さんの話にもありましたが、人間の営みや突き詰めれば人間の存在の意味まで考えさせられました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。(50代女性)
- A面ばかりの生活の中でB面に触れる機会は貴重で、肌で感じたこの活動を少しでも多くの人に伝え、社会に貢献したいです。(20代女性)

コスモ石油エコカード基金の活動

コスモ石油エコカード基金では、「国内外の環境修復と保全」及び「次世代の育成」をテーマに持続可能な社会の実現をめざしています。この基金は2002年に設立され、コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」会員のお客様からお預かりした寄付金と、コスモ石油グループの売上の一部をもとに、NPOやNGO、研究機関などのパートナーとともに、地域社会や各国政府の協力を得て、「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを推進しています。このプロジェクトでは、「地球温暖化問題への取り組み」及び「生物多様性の保全」という2つの側面から、環境問題には、貧困、食糧難、教育など様々な社会的課題が密接に関連しているという現実を踏まえ、本質的な問題解決に取り組んでいます。2011年12月現在、「コスモ石油エコカード基金」は、次頁の2プロジェクトをはじめ、国内外で14のプロジェクトを支援しています。

■「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクト



◎中国 秦嶺(シンレイ)山脈 森林・生態系回復

絶滅危惧種のキンシコウやジャイアントパンダなど希少動物の宝庫である中国、秦嶺山脈において、動物の移動を妨げる林道へ植林をすることで、森の生物多様性を回復するプロジェクトです。2011年度は11,000本の植林を行いました。

◎東日本大震災復興支援「森は海の恋人」

宮城県・気仙沼市で植林活動を行う



多くの方々の情熱を結集して、
環境保護に取り組んでいます。

中国西北大学生命科学学院 李 保国 博士

中国は今、急速な発展を遂げていますが、一方で様々な環境問題にも直面しています。秦嶺(シンレイ)山脈(陝西省)では、商業森林伐採のために建設された林道によって、キンシコウの生息地が分断され、近親交配が進み絶滅の危惧が懸念されて

NPO法人「森は海の恋人」を支援しています。このNPOは三陸の海の豊かさを守り続けるには、里山の森が健全でなければならないという、森と海の関係性・重要性にいち早く気づき、森への植樹活動や、将来の自然環境を担う子どもたちへの環境教育を行ってきました。2012年6月には植樹祭を、また8月には3泊4日の「子どもサマースクール」の開催を支援しました。

います。私たちは、コスモ石油エコカード基金を活用した活動として、廃道となった林道に82,000本の植林を行うことで、現在は、キンシコウ、リス、ハリネズミ、イノシシなどが木々の下を行き交っています。このプロジェクトは、科学者や生物学者から高い評価を受けているだけでなく、西北大学からも2,000人の学生が植林に参加するなど、一般の人々が環境保護活動に関わる良い機会になっています。

製油所・グループ会社の活動

各製油所で実施する
「コスモの森」づくり

コスモ石油の各製油所では、社員やその家族とともに、近隣の里山保全に取り組んでいます。

千葉製油所では、近隣の県有林を借り受け、「コスモの森」の整備を進めることで、地元の小学生に対する環境教育の場としても活用しています。堺製油所では、堺市の友好都市である奈良県東吉野村において、「コスモの森」里山保全活動を実施し、下草刈りや間伐作業を行っています。コスモ松山石油では、愛媛県と協定を結び「企業の森」づくりを推進し、桜やカエデの苗木を植林しています。



堺製油所が実施する奈良県東吉野村での間伐作業の様子



コスモ松山石油が実施する「企業の森」づくりの様子



千葉製油所が実施する千葉県市原市内にある鶴舞県有林での下草刈りの様子

千葉製油所屋外タンクからのアスファルト漏洩事故について 調査委員会の結果報告をお知らせします

当社千葉製油所において、6月28日に発生したアスファルト漏洩事故につきましては、地域の皆様をはじめ、関係者の皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけしたことを心より深くお詫び申し上げます。第4回事故調査委員会を9月13日に開催し、事故概要、事故原因及び再発防止策等を取りまとめましたのでご報告いたします。(9月14日 プレスリリース)

1.事故概要

発災した505番アスファルトタンクは、点検及び腐食開孔部の補修を目的に、タンク内のアスファルトを加温し、他のアスファルトタンクに移送する準備をしていました。6月28日7時頃、タンク上部の屋根板と側板の溶接部が開孔し、アスファルトが漏洩しました。漏洩したアスファルトの多くはアスファルトタンクの敷地内に留まりましたが、排水溝を通じて一部が海上に流出しました。

2.事故原因

従業員の目撃証言、現場検証、シミュレーション結果等から、「タンク内に浸入した水の沸騰に伴い、アスファルトが上部へ押し上げられてタンクの内圧が上昇し、タンク上部が開孔した」と事故状況を推定し、事故原因を抽出しました。

●事故原因

- ①本タンクの屋根板が外面腐食により相当期間開孔し、雨水が浸入する状態になっていたこと。
- ②本タンク内部に水が浸入した状態で本アスファルトを常温から加温したこと。
- ③アスファルトの海上流出を防ぐ体制が不十分であったこと。

3.再発防止策

- ①アスファルトタンク屋根板の補修基準前検査などの実施。
- ②アスファルトタンク内に水がある状態で加温する危険性を運転管理基準等に反映する。また、今後常温まで冷却されたアスファルトを再加温する際、水の沸点を超えない運用を実施。
- ③アスファルトの漏洩対策、海上への流出対策などを実施。
- ④今回の漏洩事故では人身災害は発生しませんが、アスファルトタンクの敷地内に人がいた際に同様な事象が発生した場合でも、速やかに避難できるような歩廊を増設。

4.今後の取り組みについて

今後の活動において、職位（縦の組織）と部門間（横の組織）を網羅したグループを編成し、本質的な議論を通じてコミュニケーションの改善を図り、業務に携わる実施者自らが課題を抽出して対応策や工程表を策定し、実行します。今後、二度とこのような重大事故を発生させないよう、全社員が強い決意をもって安全文化の浸透を図り、信頼回復に努めてまいります。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_120914/index.html

「コスモビークルリース」累計契約台数が 2,000台を突破しました (8月20日プレスリリース)



2010年12月から開始した当社のオートリース事業「コスモビークルリース」の累計販売台数が、8月に2,000台を突破しました。コスモビークルリースは、「快適なカーライフを送りたい」というお客様のニーズに応じて誕生したビジネスモデルです。お客様は月々定額のリース料をお支払い

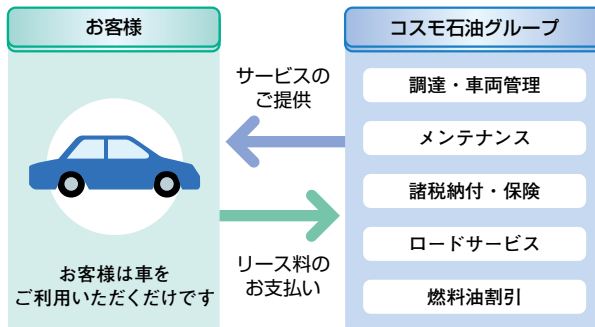
いただくだけで、車両取得代金はもちろん、車検やタイヤ交換などのメンテナンス費用から税金・諸費用がまかなえます。さらに、万が一事故に遭遇した際のロードサービスや燃料油の割引など、カーライフに関する様々なサービスをご利用いただけます。

現在、カーリースを利用しているのは、大企業がほとんどで、中小企業や個人のご利用はごくわずかです。当社は、こういった中小企業や個人のお客様に、「安心」

「便利」「おトク」なサービスを提供することで、お客様の期待に応え、コスモステーションの新たな収益の柱として事業を伸ばしてまいります。

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_120820_2/index.html

■ コスモビークルリースのシステム



お客様には月々一定のリース料をお支払いいただくだけで、面倒なメンテナンスの管理や税金のお支払いはコスモ石油グループで実施します。

コスモSS新店舗 オープン情報

2012年7月から11月にオープンした（予定も含む）コスモ石油のサービスステーションを紹介します。“ココロも満タンに”の想いを込めた新店舗ですので、お近くにお住まいの方はぜひご来店ください。

■ 7月オープン

◎セルフ安塚

群馬県伊勢崎市

■ 10月オープン

◎セルフステーションみやま柳川インター 福岡県柳川市

◎セルフピュア道場 千葉県千葉市

■ 11月オープン

◎セルフピュア相模中央 神奈川県相模原市

◎セルフ&カーケア新下関SS 山口県下関市

◎大間々 群馬県みどり市

◎碓石海岸インターSS 岩手県大船渡市

※店舗の詳細は、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/ss/open/index.html>

環境保全の取り組みが評価され、 アブダビ石油が土木学会環境賞を受賞しました

当社の連結子会社、アブダビ石油株式会社は、6月、アラブ首長国連邦アブダビ首長国のムバラス島周辺で実施しているサンゴと海草群落の救済・保全プロジェクトに関し、他2社とともに土木学会環境賞を受賞しました。同賞は、環境の保全・創造に役立つ概念形成、理論構築等に貢献した先進的、国際的な土木工学的研究に贈られるものです*。3社は生育環境に適し

た救済・移植・生育に至る一連のサンゴ増殖技術、海草群落の移植・拡大を目的としたエコマットによる海草増殖技術を確立し、実展開しました。海外での環境改善に貢献可能な技術を実用化した先進的な取り組みであり、日本の国際貢献としても評価できる内容であることから、受賞に至りました。



土木学会環境賞の受賞盾

※出典：公益社団法人土木学会ホームページ

双日エネルギー株式会社の 株式取得に関するお知らせします (11月5日プレスリリース)

当社は、双日株式会社（以下：双日）が保有する双日エネルギー株式会社（以下：双日エネルギー）の株式を譲受することについて、双日と株式譲渡契約を締結しました。

1. 株式取得の目的

当社は、原油開発から石油精製・石油製品の国内販売まで一貫した石油事業を展開し、効率的で付加価値の高いサプライチェーンの構築に取り組んできましたが、この度、双日エネルギーの株式を取得し、グループ会社化することにより、一層強固な国内販売体制を構築することにいたしました。

双日エネルギーが有する多様な仕入りソース、顧客基盤、人材、ノウハウなどは、当社のめざす国内販売事業強化の一翼を担い、当社の石油製品の安定供給力、物流ネットワーク及び顧客基盤は、双日エネルギーとの大きなシナジー効

果を生むものと考えています。加えて、当社のサービスステーションにおける高いブランドイメージや、約400万人の「コスモ・ザ・カード会員」などは、双日エネルギーの直営・卸売SS事業に対するサポート機能を最大限に発揮できるものと考えています。

2. 株式取得対象会社の概要

商号	双日エネルギー株式会社
設立年月	1958年3月
主な事業の内容	石油製品等販売
従業員数	344名（2012年10月末現在）

3. 株式の取得先の概要

商号	双日株式会社
主な事業の内容	各種商品卸売業

4. 株式譲渡契約日:2012年11月5日

5. 株式譲受日:2013年1月31日(予定)

▶ http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_121105/index.html

当社石油製品の供給体制の再構築について お知らせします

当社は、石油製品の供給体制再構築による製油所競争力の強化に向け、この度坂出製油所を閉鎖することを決定いたしました。今後坂出製油所は、物流拠点機能を持つオイルターミナル等として事業継続することで、石油製品の安定供給を果たしてまいります。(8月28日 プレスリリース)

●坂出製油所の閉鎖に至った理由

当社は、国内4製油所での供給体制を堅持してまいりました。現在、国内では省エネの推進や低燃費自動車の増加により石油製品の需要は減少に転じ、将来も同じ傾向が続くと想定されています。さらに、中東・アジア地域で製油所が建設され、石油製品の供給能力が増加する状況を勘案すると、製油所の集約による競争力強化が必須であるという認識に至りました。このような環境認識のもと、各製油所の立地や規模、装置構成など総合的な観点から検討を重ねた結果、当社の経営資源を千葉、四日市、堺の3製油所に集中し、2013年7月に坂出製油所を閉鎖することを決定いたしました。

●今後の施策について

今後、4製油所を3製油所体制に集約することで、年間のコスト削減額は100億円を計画、常圧蒸留装置の稼働率はSDベース^{※1}で90%

超の高稼働運用を予定しています。装置構成の最適化としては、二次装置の装備率^{※2}を現在の29%から32%に向上させます。また、国内の石油製品の需給バランスの適正化にも繋がるものと考えています。坂出製油所のグループ従業員は、配置転換等で雇用を維持し、精製装置の跡地については、中長期的観点から企業価値増大に繋がる活用を検討してまいります。

※1.SDベース:製油所の定期整備等の影響を除いた稼働率

※2.二次装置の装備率:(流動接触分解装置+コーカー+水素分解装置)÷トッパー能力

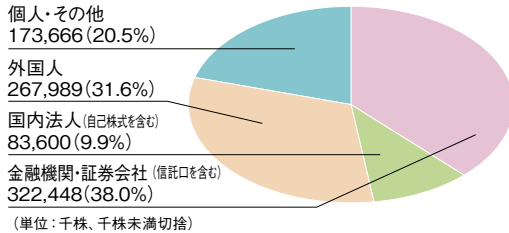
▶http://www.cosmo-oil.co.jp/press/p_120828/index.html

■坂出製油所概要

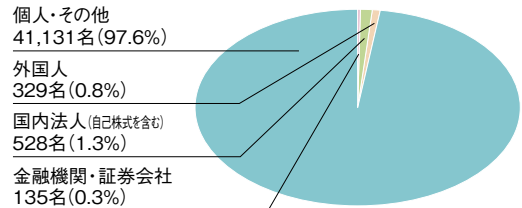
製油所名	コスモ石油坂出製油所
操業開始年月	1972年10月
原油処理能力	140,000バレル/日 (当社原油処理量の約22%)

(2012年9月30日現在)

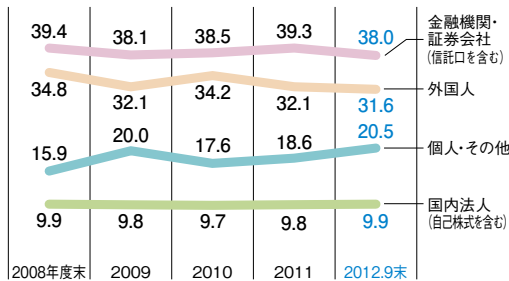
発行済株式の総数 847,705,087株



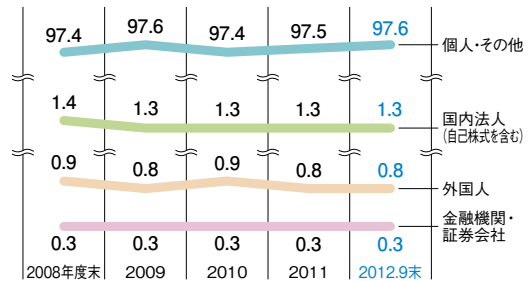
株主数 42,123名



発行済株式数の所有者別推移 (単位:%)



株主数比率の推移 (単位:%)



社債の状況 (単位:億円)

■無担保社債

	発行日	前期末残高	当第2四半期末残高	償還期限
第20回	2010.1/29	150	150	2017.1/31
第21回	2010.9/21	220	220	2015.9/18
第22回	2010.12/9	100	100	2014.12/9
第23回	2010.12/9	100	100	2016.12/9
第24回	2012.8/28	0	200	2020.8/28

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
インフィニティ アライアンス リミテッド	176,000	20.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	47,109	5.55
株式会社みずほコーポレート銀行	31,320	3.69
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,750	2.33
三井住友海上火災保険株式会社	18,878	2.22
関西電力株式会社	18,600	2.19
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	18,583	2.19
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,416	2.05
東京海上日動火災保険株式会社	17,335	2.04
株式会社損害保険ジャパン	15,792	1.86

注)持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
期末配当金 3月31日
支払株主確定日 3月31日
1単元の株式の数 1,000株
株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目
8番4号
三井住友信託銀行株式会社証券代行部
電話照会先 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の
本店及び全国各支店で行っております。
公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができな
い事故、その他やむを得ない事由が
生じた場合は、日本経済新聞に掲載
します。
公告掲載 URL
[http://www.cosmo-oil.co.jp/
ir/notice/index.html](http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html)
上場取引所 東証一部・大証一部・名証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

コスモ石油株主通信『シーズ・メール』73号

発行/コスモ石油株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IR室 〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL.0800-3331578 FAX.(03)3798-3841
ホームページ <http://www.cosmo-oil.co.jp/>

誌名『C's MAIL(シーズ・メール)』には、「C(コスモ)の手紙」の意味を込めました。株主の皆様、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。
